

### 研修目的

血液・リウマチ疾患は、全身性の問題を抱えていることが多く、臨床医学に共通のプロセス（問題点を抽出して整理し、解決法を考え、必要に応じて検索し、しかるべき場でプレゼンする）を身につける格好の場である。また、治療薬（抗腫瘍剤、免疫抑制剤等）の副作用が強いため、薬剤管理のトレーニングに適している。さらに、最先端の臨床医学（分子標的療法等）を垣間見る機会も与えられる。

### 習得できるアウトカム（能力）

#### 1) 必ず習得できるアウトカム（能力）

※習得することで診療科の研修を修了できます。習得できていないと評価を受けた場合は、研修期間が延長となります。

##### A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

・患者やその家族に、学術的な説明を適切にするだけでなく、共感的な態度で接することができる。

##### B. 資質・能力

1. 血液・リウマチ疾患が疑われる患者の問題点を適切に把握し、解決法を計画できる
2. 骨髄穿刺の手技を修得し、鏡検により基本的な血液疾患を疑い、専門医に紹介できる
3. 各種自己免疫疾患を疑い、専門医に紹介できる
4. 抗腫瘍剤・免疫抑制剤内服患者の全身管理ができ、各種感染症に対応できる
5. 血液・リウマチ疾患患者の症例報告を、上級医の指導のもと、作成できる
6. 担当患者をしかるべき場（病棟・カンファレンス・学会・論文、症例の特徴に応じて）で提示できる

##### C. 基本的診療業務

・病歴・身体所見を適切にとり、カルテに記載できる

#### 2) 研修医の意向により習得できるアウトカム（能力）

##### A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

・患者の価値観、負担に配慮した治療内容を患者と共に決定していくことができる。また患者自身、および家族に関しても、社会資源の利用などのサポート計画を立案できる。

##### B. 資質・能力

1. 病歴・身体所見より疑われる疾患を鑑別するために必要な検査を立案できる
2. 病歴・身体所見より適切に診断し、治療計画を立案できる
3. 末梢静脈ルートの確保、骨髄穿刺、胸腔穿刺、中心静脈カテーテル挿入などの臨床手技を習得する
4. 血液・リウマチ疾患の治療（化学療法、免疫抑制療法等）の基本知識を身につける

##### C. 基本的診療業務

・患者や家族と良好な人間関係を築くことができる。チーム医療の一員としてコメディカルと協調し診療を行うことができる。

### 具体的な指導方法・フィードバック方法（研修方略）

指導医と共に、病棟での研修 特に専門性の必要な治療に関して、ガイドラインなどを参照しながら、それらのベースになっているエビデンスなどを学ぶ。ローテーション終了時に研修内容を振り返り、次のローテーション先で何を学ぶべきかなど話し合う時間を設ける。

### 週間予定表

	午前	午後	夕方
月	8時45分から病棟カンファ以後、病棟研修 外来研修	病棟研修 外来研修	病棟研修
火	病棟研修 外来研修	病棟研修 外来研修	病棟研修
水	病棟研修 外来研修	病棟研修 外来研修	病棟研修
木	病棟研修 外来研修	病棟研修 総回診、カンファレンス	抄読会
金	8時45分から病棟カンファ以後、病棟研修 外来研修	病棟研修 総回診	病棟研修

### 指導責任者および指導医

指導責任者： 石井 智徳

指導医： 亀岡 淳一

〃： 小寺 隆雄

〃： 城田 祐子

〃： 沖津 庸子

〃： 小林 匡洋

〃： 市川 聡

### 学会発表・論文作成に対する指導体制

指導医が発表のための文献検索、スライド作製、プレゼンテーションなどの指導を行う。